

令和元年度

小・中学校における 租税教育実践報告

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長
名取市教育委員会
教育長 瀧澤 信雄

日頃から、皆様方には仙台南地区租税教育推進協議会に対しまして、深い御理解と御支援を賜っておりますことに感謝と御礼を申し上げます。

東日本大震災から9年が経過しました。当協議会の会員である二市二町の復興も順調に進んでおります。令和元年5月には山元町が、令和2年1月には亘理町が、新役場庁舎での業務を開始し、住民の皆様方に大きな喜びをもたらしました。岩沼市は、いち早く、被災者の集団移転事業、災害公営住宅の整備を終えておりますし、当名取市においては、令和2年3月に「復興達成宣言」を行ったところです。本年は、東京オリンピック・パラリンピックが「復興五輪」として令和2年7月から開催されます。被災地の復興を後押しする力となるよう、その成功を大いに期待するところです。

さて、令和元年10月に消費税率が8%から10%に引き上げられました。しかし、食料品等は、軽減税率の適用で税率は8%に据え置かれています。また、外食においては、イートインとテイクアウトでは税率が違ったり、キャッシュレス決済においては、ポイントが還元されたりするなど、複雑な仕組みが導入されています。児童生徒にとって、そのような複雑な仕組みは、税を理解していく上で課題となることと思われます。

令和2年度から、小学校で全面実施される新学習指導要領では、社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力を育む「主権者教育」、自立した消費者を育むため、契約の重要性や消費者の権利と責任などについて学習する「消費者教育」を重視していくことが示されています。租税教育を通して、児童生徒が税について学ぶことは、「主権者教育」「消費者教育」を見据えつつ、税に関する正しい知識を持ち、当事者意識を高めながら、主体的に課題解決に向けた取組を進めていくことにつながるものです。

当協議会の主催事業として、令和元年11月11日に名取市文化会館で、名取市立高館小学校、岩沼市立玉浦小学校、亘理町立逢隈中学校、山元町立山下中学校の4校が研究発表を行いました。「児童生徒が、税に関する興味関心を高めていること。税を正しく理解し、税の意義や役割について考える学習に取り組んでいること。それらの学習を通して、税が私たちの社会を支えていることを実感できるようになったこと。」など、各学校の確かな実践から、租税教育がしっかりと進められていることを実感することができました。課題解決に向けた主体的な学びの姿がありました。

本実践報告には、4校の租税教育に関わる確かな実践がまとめられています。今後、各学校で租税教育を推進していく際に、参考資料として大いに活用していただければ幸いです。

結びに、研究発表をしていただきました4校の先生方に改めて感謝を申し上げますとともに、本報告書の発刊に御尽力いただきました仙台南税務署の皆様、租税教育に関わる皆様方の御協力と御支援に心から感謝を申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

令和2年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	令和元年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	令和元年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫」 ～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～	11
	名 取 市 立 高 館 小 学 校 大 槻 裕 史 教 諭	
(2)	「児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための指導の工夫」 ～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～	23
	岩 沼 市 立 玉 浦 小 学 校 村 田 志 乃 教 諭	
(3)	「税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫」 ～震災前、震災直後、現在の亘理町の収入を比較させることを通して～ ～亘理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～	35
	亘 理 町 立 逢 隈 中 学 校 都 澤 智 洋 教 諭	
(4)	「租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成」 ～租税教育体験を通して～	57
	山 元 町 立 山 下 中 学 校 風 間 啓 太 教 諭	
(参考資料)	租税教育実践発表一覧	63
	令和元年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿	71

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日	～	平成元年6月13日	岩沼市教育委員会	教育長	遠藤	幸四郎
2代	平成元年6月13日	～	平成5年6月1日	名取市教育委員会	教育長	佐々木	健
3代	平成5年6月1日	～	平成8年10月15日	山元町教育委員会	教育長	菅野	丈治
4代	平成8年10月15日	～	平成13年6月8日	亶理町教育委員会	教育長	三品	堯明
5代	平成13年6月8日	～	平成14年12月31日	岩沼市教育委員会	教育長	砂金	勲
6代	平成15年1月1日	～	平成15年6月10日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
7代	平成15年6月10日	～	平成16年9月30日	名取市教育委員会	教育長	太田	洋一
8代	平成16年10月1日	～	平成17年6月2日	名取市教育委員会	教育長	阿部	哲男
9代	平成17年6月2日	～	平成19年3月31日	山元町教育委員会	教育長	佐々木	陽一郎
10代	平成19年5月10日	～	平成19年6月1日	山元町教育委員会	教育長	横山	俊二
11代	平成19年6月1日	～	平成21年6月1日	亶理町教育委員会	教育長	鈴木	光範
12代	平成21年6月1日	～	平成23年6月24日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
13代	平成23年6月24日	～	平成25年6月20日	名取市教育委員会	教育長	丸山	春夫
14代	平成25年6月20日	～	平成27年6月26日	山元町教育委員会	教育長	森	憲一
15代	平成27年6月26日	～	平成29年6月28日	亶理町教育委員会	教育長	岩城	敏夫
16代	平成29年6月28日	～	令和元年7月2日	岩沼市教育委員会	教育長	百井	崇
17代	令和元年7月2日	～		名取市教育委員会	教育長	瀧澤	信雄

2 令和元年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 児童・生徒の租税教育に関する座談会

(内容) 研究発表会に向け、児童・生徒の租税教育に直接携わっている教員同士の意見交換を分科会方式で実施した。

年 月 日	令和元年 8 月 22 日 (木)
場 所	山下地域交流センター
出 席 者	仙台南地区租税教育推進協議会役員 教育関係者・関係民間団体・税務関係官庁 平成30年度、令和元年度、令和2年度研究発表（予定）校

○ 児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	令和元年11月11日(月)					
場 所	名取市文化会館					
発 表 者	名取市立 高 舘 小 学 校	教 諭	大 槻	裕 史		
	岩沼市立 玉 浦 小 学 校	教 諭	村 田	志 乃		
	亘理町立 逢 限 中 学 校	教 諭	都 澤	智 洋		
	山元町立 山 下 中 学 校	教 諭	風 間	啓 太		

児童・生徒の租税教育に関する座談会

開催日 令和元年8月22日(木)

開催場所 山下地域交流センター



会長挨拶:名取市教育委員会
瀧澤 信雄 教育長



顧問挨拶:仙台南税務署
古木 隆幸 署長



副会長挨拶:公益社団法人仙台南法人会
佐藤 和也 会長



第一分科会



第二分科会



第三分科会

租税教育に関する研究発表会

開催日 令和元年11月11日(月)
開催場所 名取市文化会館



祝辞: 名取市
山田 司郎 市長



発表: 名取市立 高館小学校
大槻 裕史 教諭



発表: 岩沼市立 玉浦小学校
村田 志乃 教諭



発表: 亘理町立 逢隈中学校
都澤 智洋 教諭



発表: 山元町立 山下中学校
風間 啓太 教諭



講評: 仙台教育事務所
佐藤 和夫 指導班主幹(指導主事)



感謝状贈呈



記念品贈呈：仙台南間税会

令和元年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 令和元年11月11日(月)

開催場所 名取市文化会館



名取市立 高館小学校

教 諭 大槻 裕史

「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫」
～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～



岩沼市立 玉浦小学校

教 諭 村田 志乃

「児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための指導の工夫」
～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～



亘理町立 逢隈中学校

教 諭 都澤 智洋

「税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫」
～震災前、震災直後、現在の亘理町の収入を比較させることを通して～
～亘理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～



山元町立 山下中学校

教 諭 風間 啓太

「租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成」
～租税教育体験を通して～

平成30年度 租税教育研究発表要項

名取市立高館小学校

教諭 大槻 裕史

1 研究主題

税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫
～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～

2 主題設定の理由

税に関する学習は、小学校学習指導要領社会編第6学年の指導内容「国や地方公共団体の政治の取組」の中で取り上げられている。具体的には、納税は国民の義務であり、税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われ、国民生活の向上と安定のために重要な役割を果たしていることを理解できるようにするという内容である。

第6学年社会科の指導計画において、税に関する学習は、「子育て支援の願いを実現する政治」7時間扱いの中の「税金の働き」1時間扱いで取り扱う内容となっている。児童が税の意義や役割を深く理解するためには、十分な時数は確保されておらず、指導計画を見直す必要がある。しかし、一方では、新学習指導要領が実施される中で、税に関する学習の指導時数を社会科や他の教科で、大幅に増やすことはできないという現状もある。

そこで、本研究では、より少ない時数で効果的に社会科の学習の中で、租税教育を行うための指導の工夫を実践したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

社会科の学習として行う租税教育の実践を通して、税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導を工夫する。

4 研究方法

(1) 税に対する実態調査を授業前と授業後の2回行い、児童の変容を考察する。

(2) 税に関する授業時数を最大10時間と設定し、授業実践を行う。

(3) 租税教室を行い、税の意義や役割について理解させる。

5 研究の流れ

(1) 社会科年間指導計画の見直しを行い、租税教育を指導計画の中に位置づける。

(2) 単元「子育て支援の願いを実現する」の「税金の働き」(1時間扱い)で税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われていることを理解させる。

(3) 税に関する実態調査を行う。

(4) 税に関して調べさせ、ノートにまとめさせる。(家庭学習)

(5) 調べた内容を発表させ、税に関する理解を深めさせる。(1時間扱い)

(6) 発表会を聞いて、新たに生じた税に関する疑問をまとめさせる。(1時間扱い)

(7) 租税教室を行い、税に関する疑問を解決させる。(1時間扱い)

(8) 税に関する実態調査を行い、変容を考察する。

6 研究計画

平成30年 4月 社会科年間指導計画見直し

 12月 実践授業

平成31年 1月 実態調査, 実践授業

 2月 租税教室, 実態調査

 3月 研究のまとめ

7 研究の概要

(1) 児童の実態：事前調査（平成30年度 6年1組 14名 1月実施）

1 税金税にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

・消費税（13人） ・所得税（2人） ・関税（1人） ・出国税（1人）

2 税金は、どのようなことに使われていますか。

・建物を建てる（4人），
・国の施設（2人），消防の仕事（2人），警察の仕事（2人），公務員の給料（2人），
・国や県，公共の場，市町村のため，病院，学校，災害復興，地域のイベント，学校の机や椅子，国のため（政治や経済のため），道路や橋などの工事，市町村のため，電気代，水道代、わからない

3 税金は必要だと思いますか。そう思う理由も書きましょう。

（ はい 10名 どちらともいえない 4名 不要 0名 ）

（主な理由）

<必要> 税金がないと・・・

・国や県が困る。 ・建物が建たない。 ・国の収入が安定しない。
・子供の施設がなくなって，子供を預けることができなくなる。
・働いている人の給料がなくなる。 ・いろいろな仕事ができなくなる。

<どちらともいえない>

・みんなが使う場所のために使うなら必要だけど，最近，税金が高くて，なんとなく損した気分になるから。
・大事だけど少し高い。
・税金がないと住みづらくなるから必要。でも，消費税がないと物が安くなるから，どちらともいえない。
・物を買うときに値段が上がってしまうから税金はいらないと思うけど，国のために必要だから，どちらともいえない。

4 税金について、考えていること、感じていることを書きましょう。

- ・難しくて、よく分からない。(5人)
- ・何で10月から、消費税が8%から10%になるのだろうか。(2人)
- ・税金を高くしないでほしい。(2人)
- ・消費税を上げないでほしい。・消費税をなくして違うところから取ってほしい。
- ・消費税が10月から10%になるのが少し嫌。
- ・税金がどんどん増えていったら嫌。
- ・最近、どんどん物価や消費税が高くなっているため、人々の不安が高まっていると思う。
- ・税金は少し高いと思うけど、税金はみんなのためになるものだから、税金を払うとみんなのためになったんだなと思う。

【実態調査の考察】

児童が知っている「税金の種類」としては、児童の身近な税金である「消費税」が最も多い結果となった。「所得税」，「関税」，「出国税」といった児童の生活とは関係の無い税金の種類も挙げられていた。

「税金の使われ方」に関しては、実態調査を行う前に、社会科で1単位時間の学習を終えていることから、児童は、税金は「公共のために使われていること」を、ある程度、理解しているようであった。

「税金の必要性」については、「10名が必要」，「4名がどちらともいえない」，「不要が0名」という結果であった。「必要な理由」としては、「税金がなくなると公共サービス・事業ができなくなる」というものであった。ここからも、児童は、「税金は公共のために使われていること」を、ある程度は理解していることが分かった。「どちらともいえない」理由としては、児童は、税金の必要性は感じているものの、税金（特に消費税）の高さが気になり、ジレンマを感じている結果となった。

「税金について考えていること、感じていること」の質問については、「難しくて分からない」という回答と、「消費税」に関する回答が大半を占めた。社会科の学習で、1単位時間学習しただけでは、税の意義や役割への理解を深めることは難しいこと、児童は身近な税金である消費税に関心があることが分かった。

(2) 指導計画

租税教育は、基の社会科指導計画「子育て支援の願いを実現する：7時間」に3時間を加えて、10時間扱いで計画する。

月	教科等	学習内容	時数
12月	社会	・単元「子育て支援の願いを実現する」の中で、「税金の働き（1時間扱い）」について学習する。	7 (1)
1月	家庭学習	「税金に関して調べよう」 ・税金に関して調べ、ノートにまとめる。	
	社会 第1時	「税金に関して調べたことを発表しよう」 ・調べた内容を発表し、税金に関する理解を深める。	1
	社会 第2時	「税金に関する疑問をまとめよう」 ・発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめ、税金に関する興味・関心を高める。	1
2月	社会 第3時	「租税教室で税金への理解を深めよう」 ・租税教室で、税金に関する疑問を解決する。	1

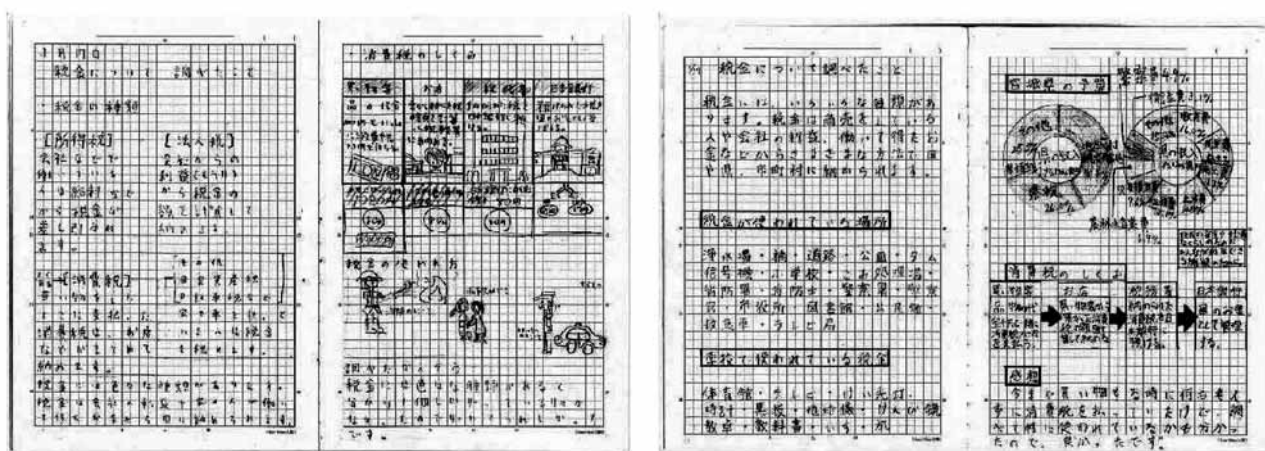
(3) 授業実践の概要

【家庭学習】「税金に関して調べよう」

12月に社会科の学習の「子育て支援の願いを実現する」の中で、「税金の働き」について学習したことを思い出させるとともに、2月に租税教室が行われることを予告して、家庭学習として、税金について調べさせ、ノート見開き2ページでまとめさせた。調べる資料としては、『わたしたちの暮らしと税金』を使用した。児童は、図表などを使うなど、自分なりの工夫をして、丁寧にノートにまとめることができた。児童が、調べた内容としては、

税金の種類、税金の使われ方、消費税の仕組みなどが多かった。

【第1時】「税金に関して調べたことを発表しよう」



①学習目標

- ・税金に関して調べてきたことをお互いに発表し合い、税金に関する理解を深める。

②授業の流れ

税金に関して、家庭学習で調べてきたことを発表し合い、学級全体で税金に関する知識を共有した。発表の内容としては、消費税に関する内容（国による税率の違い、消費税の税の仕組み）、税金の種類、税金の使われ方が多かった。

担任は、児童が発表した内容に関連づけながら、黒板にまとめていった。児童にも担任が板書した内容を整理しながら、ノートにまとめさせた。その際、児童に質疑応答させながら、お互いに教え合ったり、分かったこと、分からないこと、新たに生じた疑問について確認させたりして、税金に関する理解を深めさせるようにした。

次時に、今回の学習で生じた税金に関する疑問を整理していくことを伝えて授業を終了した。



【第2時】「税金に関する疑問をまとめよ」

①学習目標

- ・発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめ、税金に関する興味・関心を高める。

②授業の流れ

前時の学習を想起させ、前回の発表会で、税金に関してどんなことが分かったかを発表させた。

本時では、発表会を通して、新たに生じた税金に関する疑問をまとめることを確認した。前回の発表会で、自分が調べてきて、全体の中では、発表できなかった内容を、グループ内で発表し合うことを伝え、お互いに発表し合い、分からないことは教え合い、自分たちでは解決できない疑問を確認させるようにした。次に、グループ内では、解決できない疑問の中から、2つ選び、次回の租税教室で、講師の先生に質問して、疑問を解決することを告げ、グループ内で疑問を2つに絞らせた。その後、それぞれのグループで考えた質問を黒板に書かせ、学級全体でどのような質問が考えられたかを確認した。次時に、今回の学習でグループ毎に考えた質問を租税教室で解決することを告げ、授業を終了した。

児童からは、次のような質問が出された。

- ・日本の税金の種類は何種類くらいあるか。
- ・個人で仕事をしている人(商店などの個人事業主)の税金(所得税、消費税)はどうやって納めているのか。

- ・ どうして国によって，消費税が高かったり，低かったりするののか。
- ・ 消費税の税率が10%になるのは，どんな理由からか。これからも税率はあがるのか。
- ・ 消費税が下がることはないのか。

事前の実態調査や第1時の授業と同様に，消費税に関する質問が大半を占めたが，「納税の仕組み」や「税率が上がる理由」など，発展的な学習に繋がるような質問もあった。



【第3時】租税教室「租税教室で税金への理解を深めよう」

①学習目標

- ・ 租税教室で，税金に関する疑問を解決する。

②授業の流れ

仙台南法人会の方々を講師として招き，税金の種類等の基本的な税金の知識について学習した。その後，DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴することで，世の中から税金が無くなってしまおうとどうなるのか，なぜ税金が必要なのかを考えさせた。後半，時間が無くなってしまい，児童が考えた質問を，講師の方に伺うことはできなかつたが，講師の方の分かりやすい話と税金を題材としたDVDアニメで，児童の税金への理解を深めることができた。



(4) 児童の実態：事後調査（平成30年度 6年1組 14名 2月実施）

1 税金税にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

- ・消費税（13人） ・所得税（13人） ・法人税（9人） ・自動車税（4人）
- ・固定資産税（4人）・市町村税（3人） ・入湯税（1人）

2 税金は、どのようなことに使われていますか。

- ・学校（教育）（10人）
- ・道路整備（信号機設置など）（8人）
- ・公共施設の建設（4人）
- ・国の施設，消防の仕事，警察の仕事，公務員の給料，病院，災害復興

3 税金は必要だと思いますか。そう思う理由も書きましょう。

（ はい 14名 どちらともいえない 0名 不要 0名 ）

（主な理由）＜必要＞ 税金がないと・・・

＜事前調査＞

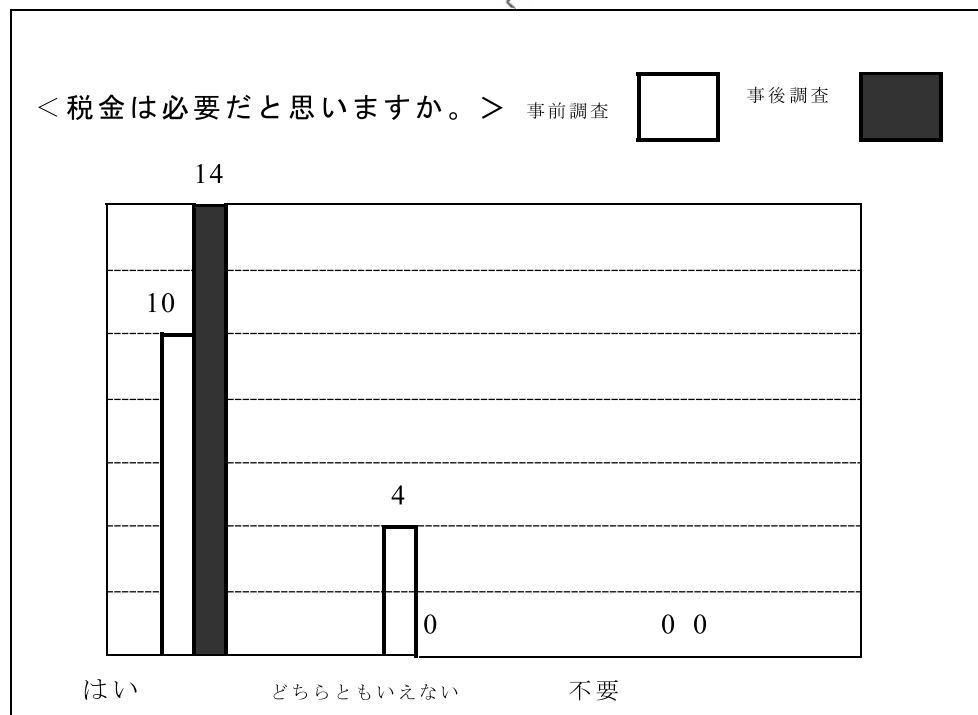
・国や県が困る。・建物が建たない。

＜事後調査＞

・人々の生活が不便になる。（7人）

- ・国の収入が安定しない。
- ・働いている人の給料がなくなる。
- ・いろいろな仕事ができなくなる。等

- ・ゴミだらけになる。（２人）
- ・警察や消防の仕事が有料になる。
- ・みんなが健康に生活できない。



4 税金について、考えていること、感じていることを書きましょう。

- ・税金がないと生活が大変になる。
- ・税金は大切だ。
- ・身近な物に税金が使われていることが分かったので物を大切にしたい。
- ・納税するのが、少し損をしているような感じだけど、その分、いろいろ税金でまかなわれているから税金は必要。
- ・税金は払わなければならない大切なものなので、ちゃんと払おうと思った。
- ・他にどんな税金があるか調べたい。
- ・消費税は何%まで上がるのか。

【実態調査の考察】

「税金の種類」としては、事前調査で挙げられていた「消費税」，「所得税」の他に，「法人税」，「自動車税」，「固定資産税」，「市町村税」，「入湯税」など，新たな種類の税金が挙げられるようになった。

「税金の使われ方」に関しては、公共のために使われているという漠然とした理解から、学校、道路整備、公共施設の建設、国の施設、消防の仕事、警察の仕事、公務員の給料、病院、災害復興など、より具な理解になったようである。

「税金の必要性」については、「14名が必要」という結果であった。「必要な理由」としては、「税金がなくなると公共サービス・事業ができなくなり、人々の生活が不便になる」というものであった。租税教室で視聴したDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の、「世の中から税金が無くなってしまうとどうなるのか」という内容が、子供達の印象に残ったことが考えられる。

「税金について考えていること、感じていること」の質問については、「難しくて分からない」という回答が無くなり、税金の必要性を述べる回答が多くなった。

以上の事後の実態調査の結果から、今回の租税教育を通して、税の意義や役割への理解をある程度、深めることができたと考えられる。

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・事前に税金に関する児童の実態調査を行い、児童の税に対する理解がどの程度かを把握することで、児童の実態に応じた指導計画を立てることができた。
- ・児童が、自ら税金についての課題を考え、調べ、ノートにまとめる活動を行うことで、意欲的に学習に取り組ませることができた。
- ・児童一人一人が調べた内容を、学級全体や少人数のグループで、お互いに発表して、共有する指導過程を設定することにより、児童の税に関する理解を深めることができた。
- ・事後の税金に関する児童の実態調査では、「税金は必要だと思いますか。」の質問に対して、学級の14名全員が「必要である」と回答した。今回の、租税教育を通して、児童の税金の意義や役割への理解を深めることができたと考える。

- ・社会科年間指導計画の見直しと租税教育の単元構成や指導過程の工夫を行うことで、指導時数を社会科や他の教科で、大幅に増やすことなく、租税教育を行うことができた。

（２）課題

- ・児童が税金に関して調べる活動を行う際の資料を、十分に準備することができなかった。その結果、児童が調べて、発表する内容が類似した内容になってしまい、税金に関する意義や役割への理解は深めることはできたが、税に関する知識についての広がりをもたせるまでには至らなかった。
- ・租税教室では、前時で児童が考えた質問を、講師の方に伺う予定であったが、時間が無くなってしまい、質問ができなかった。租税教室当日の指導過程についても、講師の方と十分な打合せをする必要があると感じた。

1 研究主題

児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための指導の工夫
～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～

2 主題設定の理由

納税は、日本国民の三大義務の一つであり、社会が成り立つために必要不可欠なものである。児童にとっても、学校生活における身の回りの物、日常生活における様々な公共物に税金が関わっており、生活の基盤となっているとも言える。

しかし、5年生の児童にとって「税金」に対する知識は大変乏しく、社会科でも6年生の学習内容となるため、ほぼ税金について何も知らないといっても過言ではない。税金が自分たちの生活にとって、必要不可欠なものであるという認識もないようであった。そのような中、子供たちが唯一知っていると答えた税金が「消費税」であった。今年度10月より消費税が8%から10%に引き上げられるという時期とも重なり、増税への関心も高いことが分かった。

そこで、まずは児童が税金を身近に感じ、税金に興味・関心を持たせることが、納税の意識と正しい知識を持つための第一歩と考えた。そのため、5年生という発達段階も考慮し、子供たちにとって一番身近な「消費税」を中心に課題設定を行い、自分たちで調べ、情報交換し、まとめていくという学び合いの学習を進める中で税金への興味・関心と納税の意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

消費税という、児童にとって身近な税金から課題を設定し、児童自ら調べ、考えさせることで、税金に対する興味・関心と正しい知識を身に付けさせる指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税金に関する意識調査を行い、児童の実態を把握する。
- (2) 租税教室や税理士の方の話を聞くことで、興味・関心を高め、意欲的な学習につなげる。
- (3) 導入では、税金に関する話し合いや簡単な説明を行い、消費税増税の話題から課題設定へとつなげる。
- (4) 課題の内容ごとにグループを編成し、複数で調べ活動をさせる。その際は、インターネット、本、「わたしたちのくらしと税金」を活用させる。
- (5) 発表会を適宜行い、調べた内容を共有して知識を広げる。
- (6) 学習を通して、分かったことや自分の考えの変化についてまとめさせ、事前との変容を考察する。

5 研究の計画

時 期	研究内容
令和元年 6 月	事前意識実態調査・分析
	租税教室①
7 月	課題設定, 調べ学習
	租税教室②, 調べ学習, 発表会準備
10 月	発表会, 振り返り
	研究のまとめ
11 月	研究発表会

6 指導計画 (詳しい指導計画については別紙1)

	段 階	主な学習内容	時間	実際
事 前	実態意識調査	・税に関する意識実態調査を行う。		
第1次	①税金について知ろう	・租税教室を開き, 税の基本的な知識と意義や役割について知る。	1	1
	②学習の見通しを立てよう	・税に関する学習の見通しを立て, 課題設定とグループ決めを行う	1	1
第2次	①消費税について調べよう1	・本やパンフレット, インターネットを活用し, 課題について調べる。	2	2
	②税金のプロに質問しよう	・租税教室を行い, 調べ学習の中で出てきた疑問について質問し, 解決する。	1	2
	③中間発表をしよう	・中間発表を行い, 現段階で分かったことについて情報交換を行う。	1	1
	④消費税について調べよう2	・本やパンフレット, インターネットを活用し, 課題について更に調べる。	3	3
第3次	①調べたことをまとめよう	・調べたことを模造紙にまとめる。発表原稿をまとめる。	3	5
	②調べたことを伝えよう	・発表会に向けてグループごとにリハーサル, 練習を行う。	1	2
	③発表会をしよう	・発表会を行う。	1	1
第4次	○学習を振り返ろう	・学習の振り返りを行う。	1	1
		合計時数	15	19

7 研究の概要

(1) 児童の実態 (事前意識調査)

(令和元年6月25日実施 対象: 5年1組 男子17名 女子15名 計32名)

①「税」について知っていることは何ですか。

- ・税金（18人） ・消費税（23人） ・税込み（10人） ・税抜き（10人）
- ②税金は必要だと思うか。
- ・必要（5人） ・必要ではない（5人） ・分からない（22人）

【考察】

「税」と聞いて「税金」や「消費税」という言葉は思い浮かぶが、それ以外の税に対する知識がほとんどないことが分かった。また、知識がないため、必要かどうか分からないという考えが多いようであった。児童の反応を見ると、税の話は難しいと感じているのか興味・関心の低さが伝わってきた。

そこで、税金が自分たちの生活に直結する身近なものであることを知り、関心を高めることが大切であると考えた。

（2）実践の概要

【第1次】

①税金について知ろう（1時間）

仙台南法人会の方を講師としてお招きして租税教室を開催し、税金の種類や必要性など、基本的な税の意義や役割について学習した。その中で、「消費税」に着目し、もしも消費税がなかったらどのような生活になるかという内容のDVDアニメ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴したことで、消費税の意義と税金の大切さを実感したようであった。



租税教室で税金について学習



1億円のレプリカで重さの体験

②学習の見通しを立てよう（1時間）

画像資料を活用して税金について簡単に復習し、さらにこれから開始される消費税増税の話題から子供たちにとって身近な「消費税」について疑問を持つことができるような導入を行った。今後、「消費税」について詳しく調べていくことを確認し、調べたい内容が似ている児童同士でグループを編成して共に調べて学習を進めていくこととした。グループは、「消費税の使われ方を調べる」「消費税の歴史について調べる」「消費税の外国との比較について調べる」「軽減税率について調べる」という4種類のテーマで6チームが編成された。



税金・消費税についての確認



課題別チーム編成

【第2次】

①消費税について調べよう1（2時間）

まずは、インターネットを活用した税金の調べ活動の仕方について指導した。「国税庁のホームページ」を活用することを統一し、アクセスの仕方と調べ活動に効果的なページの紹介を行った。それから、自分たちの課題について調べ、調べる中で分からないことや疑問点をまとめるようにさせた。

②税金のプロに質問しよう（2時間）

税理士の方2名をゲストティーチャーとしてお招きし、子供たちが知りたいこと、調べていて疑問となったことを質問し、それに対して丁寧な解説をいただいた。「税理士の方が用意された税に関する話を聞く時間」ではなく、「子供たちの質問に答えていただく時間」として設定したことは子供たちの意欲向上と課題解決につながり、とても有効であった。



税理士の方からの説明



たくさんの子供たちが質問しました

③中間発表（1時間）

課題に対して、現段階で分かったこととこれから更に調べていきたいことについて報告する時間を設定した。時間短縮のため、発表資料は、学習中にとったメモをそのまま活用させた。アイパッドで撮影し、テレビ画面に画像として提示することで資料作成の時間を削減することができた。また、中間発表として友達の発表を見聞きすることで、自分たちのグループの調べた内容と比較することができ、更なる意欲へとつながった。



アイパッドを使っでの中間発表



画像による発表資料の提示

④消費税について調べよう 2 (3時間)

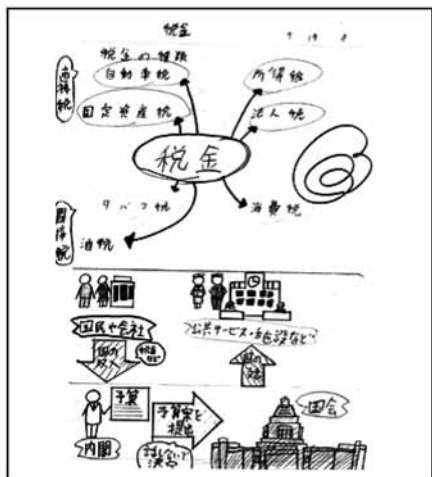
税理士の方との学習や中間発表により、更に意欲が高まった中で、調べ活動の続きを行った。この頃には、税務署の方に依頼した「わたしたちのくらしと税金」のパンフレットが届いたため、インターネットとパンフレット、図書館の本を活用しながら調べ学習を進めることができた。パンフレットは、5年生の子供たちにとって分かりやすい資料として効果的だった。また、子供たちは発表会の資料作成を見据え、必要な資料を印刷したり更に深く調べたりする活動を行っていた。家庭の自主学習で、自分の課題について学習してくる子も増え、興味・関心の高まりを感じた。



インターネットでの調べ活動



パンフレットや自主学習ノートを使って



子供たちの自主学習ノート



新聞記事を活用しての自主学習

【第3次】

①調べたことをまとめよう（5時間）

発表資料は、各グループ1枚の模造紙にまとめるようにさせた。子供たちがその方法に親しんでいて取り組みやすいということと、1枚にまとまっていることで全体が見やすいということが選択の理由である。また、「税」という難しい内容の学習なので、個人の力だけではなく、相談したり教え合ったりすることでまとめ活動が効率よく進められるであろうと、児童の実態も考慮した。

子供たちには、資料作成のポイントとして「資料の見やすさ」に注意させた。文字や文章が多すぎる資料になりがちなので、図や表やイラストの活用、色の効果的な使い方、レイアウトなどの工夫についてアドバイスしてから取り組ませた。1枚の模造紙に複数の子供たちがまとめるという作業で、予想より時間が掛かってしまったが、意見を出し合って工夫し、別紙でクイズを作成するなど、それぞれが満足のいく発表資料が出来上がったようであった。



グループで発表資料を作成



グループで発表原稿を整理

②調べたことを伝えよう・発表会（3時間）

発表会に向けた準備とリハーサルの時間を2時間確保した。相手に見やすく分かりやすい発表になっているかを工夫しながら、各グループで原稿の手直しや資料の訂正、5分程度という時間枠での発表の練習を行うことができた。

発表会は、校長、主幹、教務の先生方に来ていただき、発表意欲の向上を図った。子供たちは、他のグループの発表を聞くことで、消費税に関して更に深く学習することができ、「発表会が楽しかった。」「聞いて、さらに勉強になった。」という感想が多く見られた。

〈消費税の使われ方を調べたグループ〉

- ・ 税収の多くに消費税が充てられていることから、税金の使われ方が消費税の使われ方になるという前提で調べさせた。
- ・ 税理士の方から教わった、社会保障の「こ」（子育て）「い」（医療）「ね」（年金）「か」（介護）「よ」（幼児教育）の5文字のキーワードについて詳しく説明していた。
- ・ 公共物、国や町のため、みんなの助け合いのお金なのだということをまとめていた。

〈消費税の歴史を調べたグループ〉

- ・ 税のシステムが、邪馬台国の卑弥呼の頃から始まっていたことや、租庸調などのように昔はお金ではなく、物や労働で納めていたことなどを年表を使ってまとめていた。
- ・ 平成元年に始まった3%の消費税からの変遷についてまとめていた。
- ・ 「歴史」の学習をまだしていない5年生の子供たちにとっては、歴史上の人物や用語の理解に苦労したようだった。一つ一つの用語について、調べて学習を進めていた。

〈消費税の外国との比較について調べたグループ〉

- ・日本の8%（現在10%）の消費税が、世界の国々と比較すると低い方であることを表やグラフを使ってまとめていた。
- ・消費税の高い国や低い国をランキングにしてクイズを出題していた。
- ・消費税の高い国は、社会保障が充実していることを紹介したり、外国には日本にはない税の仕組みがあることなども紹介したりしていた。

〈軽減税率について調べたグループ〉

- ・国民のため、生活必需品の食料品には軽減税率が適用されることを、イラストで分かりやすくまとめていた。似たような商品でも軽減税率が適用される場合と、そうでない場合に興味を持ち、詳しく調べていた。税理士の方に質問したことも、発表に十分生かされていた。
- ・学習中、10月に入った段階で増税が始まり、さっそく買い物をしたレシートを手に入れるなど、実体験や実物を参考にしていた。



発表会の様子「外国との比較について」



発表会の様子「消費税の使われ方について」



校長先生から感想をいただきました。



発表資料の例

【第4次】

①学習を振り返ろう（1時間）

これまでの学習を通して学んだことや、税のことを学ぶ前と学んだ後で、考えがどのように変わったかを振り返らせた。

- ・この学習を通して消費税率の外国との比較について考えました。日本は世界と比べると比べると消費税が低い国だということに驚きました。また、税理士の方のお話を聞くまでは、税について興味もなく、消費税などなくてもよいのではないかと思っていましたが、税は大切なものというよりなくてはなくてはならないものであることに気が付きました。
- ・学習する前は、「税金なんてなくてもよい。」と思っていました。何に使われているかを知らなかったからです。でも、この学習を通して考え方が変わりました。火事になったら消防車が出動してくれることや授業料を払わなくても学校で勉強できることも税金のおかげだと分かって、「税金は私たちみんなのためにあるから、必要なものだ。」と思うようになりました。もっと税金について調べたくなりました。これからは、困っている人や高齢者にもっと税金をかけてほしいです。
- ・この学習を通して、千年以上も前から税があったことを知りました。昔は、食べ物や特産品、労働などを税として納めていたことも知れておもしろかったです。税金は、みんなにとって必要なものだと思います。他にも、色々な時代の税のことを知りたくなりました。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(小崎 蒼乃)

○ 10月10日(木)

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考え比かくし、まとめましょう。

私はこの学習をして、消費税をふくむ税金は、国のために使われていることがわかりました。また、学習する前は「税金なんていらないんじゃない?」と思ってたけれど学習してみると、税金は国のためにも私達のためにも必要だということがわかり、考えが変わりました。

〈国への提言書〉

税金の使い方は、計画的に、かきと決めて下さい。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(片岡 翼)

○ 月 日()

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考え比かくし、まとめましょう。

わたしは、この学習を通して、外国にはないものや外国にしかないものがあつて、日本には、国民の三大きむ「のう税のきむ」、教育のきむ、ろうどうのきむ、があつて、かゝつて、わかつた。

他の国の学習をしたことを聞いたら、学校では、教科書、パソコン、などに、税を使っているのがわかつた。

日本の借金も返すためには、もうひとつ、消費税を上げた方が、良い。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(井川 彩花)

○ 10月10日(木)

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考え比かくし、まとめましょう。

私はこの学習をして、前は、消費税をふくむ税金は、国のために使われていることがわかりました。また、学習する前は「税金なんていらないんじゃない?」と思ってたけれど学習してみると、税金は国のためにも私達のためにも必要だということがわかり、考えが変わりました。

〈国への提言書〉

税金の使い方は、計画的に、かきと決めて下さい。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(大谷 莉子)

○ 10月10日(木)

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考え比かくし、まとめましょう。

わたしは、この学習で、税金の大切さを知りました。

税金は、国のために使われていることがわかりました。また、学習する前は「税金なんていらないんじゃない?」と思ってたけれど学習してみると、税金は国のためにも私達のためにも必要だということがわかり、考えが変わりました。

〈国への提言書〉

税金の使い方は、計画的に、かきと決めて下さい。

(4) 税に対する事後調査

(令和元年10月10日実施 対象：5年1組 男子17名 女子15名 計32名)

- ①「税金」という言葉を知っていますか。 はい(32人) いいえ(0人)
- ②税金について知っているものを書きましょう。
- ・消費税(22人) ・たばこ税(26人) ・酒税(15人) ・所得税(12人)
 - ・自動車税(9人) ・ゴルフ税(2人) ・ポテトチップス税(2人) ・関税
 - ・都道府県民税 ・固定資産税 ・入湯税
- ③収めた税金はどんなことに使われていますか。
- ・公共の施設や運営ため ・学校の物をそろえるため(教科書, 机, いすなど)
 - ・国のため ・みんなに役に立つことや助けることのため ・社会保障
 - ・みんなが安心安全に暮らすため ・日本を平和にするため
- ④税金は必要だと思うか。 必要(32人) 必要ない(0人) 分からない(0人)
- ⑤学習の中で楽しかったことはどのような学習ですか。
- ・課題設定, グループ編成(2人)
 - ・調べ学習(23人)
 - ・発表資料をまとめる学習(20人)
 - ・発表リハーサル(2人)
 - ・発表会13人(発表する学習5人, 発表を聞く学習8人)
 - ・租税教室, ゲストティーチャーとの学習(20人)

【考察】

事前調査と比較すると、税金に対する知識が増え、税金が必要だと考える児童が大幅に増えた。「税金が必要かどうか」という質問に対しては、全員が「必要」と答え、事前の結果と大幅に変化した。また、感想文からは、子供たちが意欲的に学習に取り組み、もっと調べたい・知りたいと感じたことが伝わってきた。主体的に調べたりまとめたりしたことで、有意義な学習になったことがうかがえた。

8. 成果と課題

(1) 成果

- ・初めに租税教室を行ったことで、税に関する関心が高まり、知識も得ることができたので、課題設定につなげやすかった。
- ・課題ごとにグループを編成して調べ学習を行ったことで、学び合ったり助け合ったりして学習を進めることができた。児童の実態に合っていて効果的であった。
- ・インターネットの調べ学習では、国税庁のホームページを活用させたことで、効率的に課題解決ができた。
- ・「わたしたちの暮らしと税金(小学校用)」を5学年児童分手配し、活用した。分かりやすい内容となっており、「使われ方」「歴史」を調べるグループに大変効果的であった。
- ・税理士の方をお呼びして、調べ学習で生まれた疑問を質問して答えていただく時間を設定した。直接の課題解決となったことで、より意欲が高まり、効果があった。
- ・税に関して興味が高まり、家庭の自主学習で取り組んでくる子供たちが増えた。

(2) 課題

- ・今年度、年間指導計画の中に、一時的に租税教室を位置付けた。例年の2学期の総合学習では稲作についてのまとめ学習をしていたが、それを削除した形となる。学習としては充実していたが、時数が多くかかっているため、継続するには検討が必要である。
- ・歴史や税の学習がない5学年の子供たちにとっては、難しい内容であった。課題の設定に工夫が必要であった。
- ・発表資料をまとめる方法を模造紙にまとめる形をとったが、全員で模造紙に書く作業に効率の悪さが見られた。各自が同時に作業を進められるような発表資料作成の方法をとると、更に時数の削減となるのかもしれない。

R1 5年 消費税について考えよう指導計画(10時間)

月	時	目標	学習活動	主な評価	主な支援	備考
9	1	・消費税について知る。	・消費税について理解し、課題を設定する。 ・調べたい課題ごとにグループを編成する。	・消費税について理解できたか。 ・意欲的に課題を設定できたか。	・消費税が理解できるように指導を工夫する。 ・課題は学級全体で一つにしぼりたい。	・課題は「使われ方」「軽減税率」が望ましい。
	2～3	・課題について調べ、ワークシートにまとめる	・課題について調べ、ワークシートにまとめる	・課題についてワークシートにまとめられているか。	・インターネットだけでなく書籍も準備して効率よく調べられるようにする。 ・プリントしたりコピーしたりして、書く作業を減らす。	・グループで活動することが望ましい。
	4	・ゲストティーチャーを招き、疑問点を質問して解決する。	・調べる中で分からないことを、税理士の方に質問して解決する。	・疑問点を整理し、意欲的に質問して解決することができたか。	・質問したことをまとめておくようにさせる。	・税理士の依頼。 ・音楽室の確保。
	5	・課題について調べたことを分かりやすく発表する。	・調べたことをクラス全体に発表する。 ・他者の調べたことをメモする。	・調べたことを分かりやすく伝えられているか。 ・聞き取ったことをメモしているか。	・メモやプリントしたものをiPadで映して発表させる。	
	6～8	・グループごとに課題に対する意見を話し合いまとめる。 ・模造紙に課題について調べたことと、それに対するグループの意見をまとめる。	・グループごとに課題に対する意見を話し合いまとめる。 ・模造紙に課題について調べたことと、それに対するグループの意見をまとめる。	・表や絵などを用いてまとめられているか。 ・グループの意見を説得力ある言葉で伝えているか。	・模造紙のまとめ方をアドバイスする。	・模造紙は多くても2枚にまとめる。
	9	・グループの伝えたいことを聞き手に伝える。 ・発表をする。 ・聞いたことから考えを深める。	・模造紙を使って、グループの伝えたいことを聞き手に伝える発表をする。 ・聞いたことから自分の考えを深める。	・グループの伝えたいことを聞き手に伝える発表ができたか。 ・他グループの発表を聞いて、自分の考えを深めることができたか。		・ビデオで撮影する。
10	10	・消費税に対する自分の考えをまとめる。 ・税や政治に対する関心を高める。	・消費税についての自分の考えを国(自治体)や議員への提案書としてまとめる。	・自分の考えをまとめることができたか。	・ワークシートにまとめさせる。	・学習後の変容についてアンケートも取る。

令和元年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立逢隈中学校

教諭 都澤 智洋

1 研究主題

『税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫』
～震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較させることを通して～
～亘理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～

2 主題設定の理由

未曾有の災害である東日本大震災が起こってから8年が過ぎた。現在中学3年生の生徒は当時小学1年生にあたり，記憶は全くないわけではないが，どのような災害であり，どのように復興を果たしてきたかの理解はあいまいな部分が多いだろうと予想される。

本研究では，震災直後の写真から当時の被害の大きさを知り，現在の写真から復興の進み具合を確認させる。また，震災前，震災直後，そして現在の亘理町の収入を知ることにより，震災の復興に向けて，国からの国庫支出金や地方交付税交付金が大きな役割を果たしたことを理解させ，税によって助けられたのだということを実感させたい。

また，本研究を逢隈中学校の校内研究の一環ととらえ直し，1時間の授業の中で生徒にとってより深い理解になる手立てを探っていく。

本研究の実践により，税の大切さ，納税の大切さを実感させられ，将来責任感のある納税者へと成長できるようになると考え，本主題を設定した。

3 研究目標

税を通して，支えられている社会に生きていることを実感させる。

4 研究仮説

- (1) 震災直後の写真と現在の写真を比較することにより，復興の進み具合が確認できるであろう。
- (2) 震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較することによって，私たちは税によって支えられている社会に生きていることを実感できるであろう。
- (3) 国庫支出金や地方交付税交付金などの意味を知ることにより，より身近に税をとらえ，考えることが深まるだろう。

5 研究方法

- (1) 震災前（平成22年度），震災直後（平成24年度），震災後（平成29年度）の亙理町の収入のグラフを excel を使って作成させる。その際，町の収入，国庫支出金，地方交付税交付金，県費の4つに特化して着目させる。（ICT活用教育）
 - (2) 震災直後の写真，復興した写真を見比べさせ，その変容と今支えられていることを実感させる。
 - (3) 国庫支出金や地方交付税交付金は，地方自治体のための国の支出であることを理解させる。
 - (4) 国の収入の一部に生徒自身も負担している消費税があることを理解させ，自分たちの生活も税と深く関わっていることを理解させる。
- 以上4点を主なねらいとして，逢隈中学校の校内研究とからめて授業実践を行っていく。

6 研究計画（平成30年度）

8月 租税教室座談会

9月 税に関する実態調査の実施

11月 研究のまとめ，発表

12月 授業実践

※税に関する学習は2学期末から3学期始めに行われる予定になっており，教科書の指導計画に則って計画を立てた。

7 研究の概要

- (1) 税に関する実態調査の結果（平成30年度3年1組，33名中30名実施）

- 1) 皆さんの身の周りにある，税金が使われているものを答えられますか。

できる（ 26 人） できない（ 2 人）

- 2) 1)で『できる』と答えた人に質問します。それは具体的には何か，思いつくものを全て答えなさい。（○の中の数字は人数）

建物，旗，教科書⑩，学校②，公園，道路⑨，パトカー，救急車③，学校の物④，交通整備，自動車に関する税金，刑務所の人たちへのご飯，公務員の給料④，建物の建設，公共の物，公園②，歩道橋，公共施設，福祉，消防④，警察③，信号②，医療費，病院，ゴミ収集，年金，車，

- 3) 税金は必要だと思いますか。

必要だ（ 27 人） 必要ない（ 1 人）

- 4) 3)で『必要ない』と答えた人に質問します。なぜそう思いますか。思いつく理由を全て答えなさい。

高い税金によって，長く乗ってきた車を手放すことになるから。

(2) アンケートの考察

- ・ほとんどの生徒が税金が使われているものに関しては答えられていた。
- ・税金が使われているものに関しては、学校や消防、警察など身近なものにとどまり、多方面での理解にはなっていない。
- ・ほとんどの生徒が税金の必要性を理解していた。
- ・『税金は必要ない』と答えた生徒の答えは自動車税に限ったものであり、広く税金の使い途を理解できているわけではない。

8 指導と評価の計画（5時間扱い 本時5／5）

節 時	学習内容	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	考	技	知		
4 節 政 府 の 役 割 と 国 民 の 福 祉	1 1 私たちの生活と財政 ・国や地方自治体はどのような経済活動を行っているか理解する。 ・税金の制度はどうあるべきか考える。		○	○		・財政の内容を理解し、租税制度がどうあるべきか考察できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 2 政府の役割と財政の課題 ・市場経済において、政府はどのような役割を果たしているか理解する。		○		○	・政府の財政が市場経済にどのような影響を与えているか理解できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 3 社会保障の仕組み ・社会保障とは何かを理解し、日本の社会保障制度がどのようなになっているか把握する。	○	○			・日本の社会保障制度がどのようなになっているか興味関心を持ち説明できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 4 少子高齢化と財政 ・少子高齢化は日本の財政にどのような影響を世帯に与えるか理解できる。 ・社会保障と財政の在り方について考える。		○		○	・少子高齢化と財政、社会保障の問題点を理解し、説明できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 5 亘理町の財政の変化（本時） ・震災の復興に多額の税が使われたことを考察できる。 ・税の大切さについて説明できる。		○	○		・グラフから亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、税の大切さについて説明できる。	・ワークシート (個別学習, ペア学習) ・発言 ・メモ書き

※評価の観点について

学習指導要領に示されている社会科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価する。「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。学期末や学年末の評定は、この観点別評価に照らして行われるものとする。

- ・関…社会的事象への関心・意欲・態度。

社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、より良い社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。

- ・考…社会的な思考・判断・表現。

社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

- ・技…資料活用の技能。

社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。

- ・知…社会的事象についての知識・理解。

社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、税の大切さについて説明できる力を身に付けさせる。

(2) 本時の指導に当たって

①校内研究の視点

《校内研究主題》

学ぶ喜びを実感し、自分の考えを進んで表現する生徒の育成
～ともに学び合う学習活動の自校化を通して～

3 学年社会科では、普段の授業から研究のねらいに迫るために個別学習（主体的な活動）、グループ学習（対話的な活動）、一斉授業（理解の深化）のメリハリをしっかりと持たせている。今回の授業実践は場所が教室ではなくパソコン室になるだけでなく、対話的な学習もグループではなくペアになる。環境が変わっても、授業のねらいをはじめに明確化することによって生徒が「分かる喜び」を味わえるような援助を実践していきたい。

②学力向上に向けた5つの提言の視点

「自分の考えをノートにしっかり書かせること。」

導入時に提示する震災時の写真と復興後の写真を見比べて考えたこと、亘理町の財政の変化をグラフ化したときにどう思ったかということを文章化させることにより、理解の深化を図る。

「授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。」

終末時に授業の振り返りをまとめる時間を設け、まとめさせる。ねらいを達成できた生徒を机間指導によって把握し、その生徒に発表させることにより、理解の深化を図る。

(3) 指導過程

別紙

(4) 評価基準（評価規準に到達できたかどうかの基準）

評価項目（B）	十分満足できる（A）	努力を要する生徒（C）への手立て
税の大切さについて理解できる。	税という手段でもって私たちは助け、助けられていることを実感でき、説明できる。	亘理町が復興できたのも、日本全国から集められた税金によるものであることを説明する。

(5) 準備物

○生徒：ファイル、ワークシート、筆記用具

○教師：ワークシート、写真資料、excel ソフト（データ）

(6) 板書計画

◎震災から亘理町が復興できたのはなぜだろう					○復興の背景を探ろう
写真	写真	写真	写真		

(3) 指導過程

段階	主な学習活動と生徒の反応	指導上の留意点	準備物・評価 (方法)
導入 (15)	1 震災直後の写真を見せる。 - 感想をワークシートにまとめる。 - 何名かに発表させる。 2 同じ場所の復興が進んだ現在の写真を見せる。 - 感想をワークシートにまとめる。 - 何名かに発表させる。	1 その写真がどこの写真なのか、簡単に補足説明する。 - 身近に感じさせる。 2 どのくらい時間がかかったのか補足説明する。 - 復興の大変さを実感させる。	写真 ワークシート配布 自分の考えを率直にまとめられたか〔態度・技能〕
展開 (25)	復興が進んだ背景には何があったのだろう。 3 復興にはいったいどのくらいお金がかかったのだろう。 - 自由に予想させる。 4 そのお金は全て亘理町だけでまかなったのだろうか - 自由に予想させる。 5 どれほどのお金がかかったかグラフで明確にさせる。 - excelシートに数値を入力していく。 6 完成したグラフを見て，感想を発表させる。	3 約1100億円のお金がかかった。 - どのような内訳かは説明しない。 - 震災前の亘理町が町税として集めた額は3億円程度であったことを説明。 4 どのような内訳か予想させる。 5 生徒のパソコンを俯瞰し，数値が間違えている生徒にはその都度助言する。 6 国庫支出金と地方行成交付金の違いを確認する。	復興にどれほどのお金がかかったか，予想できたか〔思考・技能〕 数値表配布 グラフを作成できたか〔技能〕 復興には多くの税金が使われたことに気付いたか〔知識・理解〕
終末	7 授業の振り返り	7 「税を納める」とはどのような	多くの税金が復興に使われたこ

(20)	・復興の背景に何があったか考えさせる。 ・何名かに発表させる。	ことなのか，考えさせる。	とを知り，納税の大切さに気付いたか（知識・理解）
------	--	--------------	--------------------------

ワークシート

～巨理町の復興の背景にあったのは何だろう～

（１）震災直後の写真を見て考えたことは何かまとめよう。

（２）復興した写真を見て，考えたことは何かまとめよう。

(3) グラフを作成し終えて考えたこと何かまとめよう。

(4) 「税を納める」とはどういう意味があるのか、今日の授業を通して考えたことをまとめよう。

組 番 氏名

令和元年度 租税教育に関する研究発表

亘理町立逢隈中学校

教諭 都澤 智洋

1 研究主題

『税を通して、支えられている社会を
実感させるための授業実践の工夫』

～震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較させる
ことを通して～

～亘理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～

2 主題設定の理由

震災前，震災直後，そして現在の亘理町の収入を知れば，
→震災の復興に向けて，国からの国庫支出金や地方交付税交付金
が大きな役割を果たしたことを理解できる。
→税によって助けられたのだということを実感できる

本研究を逢隈中学校の校内研究の一環ととらえれば，
→1時間の授業の中で生徒にとってより深い理解になる
手立てを探ることができる。

3 研究目標

税を通して，支えられている社会に
生きていることを実感させる。

4 研究仮説

- (1) 震災直後の写真と現在の写真を比較することにより、復興の進み具合が確認できるであろう
- (2) 震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較することによって，私たちは税によって支えられている社会に生きていることを実感できるであろう。
- (3) 国庫支出金や地方交付税交付金などの意味を知ることにより，より身近に税をとらえ，考えることが深まるだろう。

5 研究方法

(1) 震災前（H22），震災直後（H24），震災後（H29）の亘理町の収入をグラフ化させる。

その際，町の収入，国庫支出金，地方交付税交付金，県費に特化して着目させる。

(2) 震災直後の写真，復興した写真を見比べさせ，その変容と今支えられていることを実感させる。

(3) 国庫支出金や地方交付税交付金は，地方自治体のための国の支出であることを再度理解させる。

(4) 国の収入の一部に生徒自身も負担している消費税があることを理解させ，自分たちの生活も税と深く関わっていることを理解させる。

(5) 以上4点を主なねらいとして、
逢隈中学校の校内研究とからめ
て授業実践を行っていく。

6 研究計画（平成30年度）

8月 租税教室座談会

9月 税に関する実態調査の実施

11月 研究のまとめ，発表

2月 授業実践

※税に関する学習は2学期末から3学期始め
に行われる予定になっており，教科の指導
計画に則って計画を立てた。

7 研究の概要

(1) 税に関する実態調査の結果(平成30年度3年1組, 33名中30名実施) 回

1) 皆さんの身の周りにある, 税金が使われているものを答えられますか。 回

できる(26 人) できない(2 人) 回

2) 1)で『できる』と答えた人に質問します。それは具体的には何か, 思いつくものを全て答えなさい。 回

建物, 旗, 教科書⑩, 学校②, 公園, 道路⑨, パトカー, 救急車③, 学校の物④, 交通整備, 自動車に関する税金, 刑務所の人たちへのご飯, 公務員の給料④, 建物の建設, 公共の物, 公園②, 歩道橋, 公共施設, 福祉, 消防④, 警察③, 信号②, 医療費, 病院, ゴミ収集, 年金, 車,

3) 税金は必要だと思いますか。 回

必要だ(27 人) 必要ない(1 人) 回

4) 3)で『必要ない』と答えた人に質問します。なぜそう思いますか。思いつく理由を全て答えなさい。 回

高い税金によって, 長く乗ってきた車を手放すことになるから。

(2) アンケートの考察 回

- ・ほとんどの生徒が税金が使われているものに関しては答えられていた。 回
- ・税金が使われているものに関しては, 学校や消防, 警察など身近なものにとどまり, 多方面での理解にはなっていない。 回
- ・ほとんどの生徒が税金の必要性を理解していた。 回
- ・『税金は必要ない』と答えた生徒の答えは自動車税に限ったものであり, 広く税金の使い途を理解できているわけではない。 回

8 指導の計画(5時間扱い 本時5/5)

第4章 私たちの暮らしと経済

第4節 政府の役割と国民の福祉

- 1 私たちの生活と財政
- 2 政府の役割と財政の課題
- 3 社会保障の仕組み
- 4 少子高齢化と財政
- 5 本時の指導

9 本時の指導

(1) 本時の目標

亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、
税の大切さについて説明できる力を身に付けさせる。

(2) 本時の指導にあたって

①校内研究の視点

《校内研究主題》

学ぶ喜びを実感し、自分の考えを進んで表現する生徒の育成
～ともに学び合う学習活動の自校化を通して～

②学力向上に向けた5つの提言の視点

「自分の考えをノートにしっかり書かせること。」

「授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用
問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。」

(3) 指導過程 別紙

(4) 評価基準（評価規準に到達できたかどうかの基準）

A, B, Cの基準を設定し、全ての生徒がねらいを達成
できる手段を考えた。

10, 授業実践 ～導入～



生徒の感想 1

租税教室振り返りシート

1, 東日本大震災で被災したばかりの様子を見て, どのように思いましたか?

かれまがたくさんあって、津波の威力で1階部分のガラスが割れていて、津波のひどさを物語っている。

2, 復興した写真を見て, どのように思いましたか?

かれまなどで埋まっていた校舎が、すごくきれいになっているけれど、周りにあった建物などがほとんど無くなってしまっているのが寂しいと思った。

生徒の感想 2

租税教室振り返りシート

1, 東日本大震災で被災したばかりの様子を見て, どのように思いましたか?

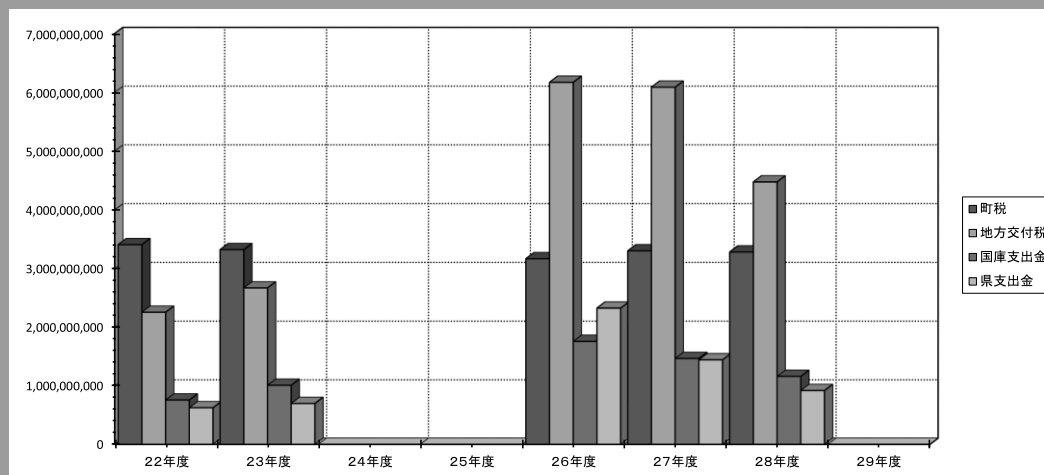
津波で流された木がたたくさんあって津波の強さがわかりました。
学校の建物は強いと思った。
みんな中も残っている

2, 復興した写真を見て, どのように思いましたか?

震災での教訓を生かして1階部分に教室をなくしていることは大事だと思った。また、もう戻らないかと思うくらいのかれまがあったのに一つもなくて復興におどろいた。

10, 授業実践 ～展開～

24, 25, 29年度が空欄になるとこんなグラフになります



このデータをパソコンの画面に映します

◎東日本大震災前後に見る亘理町財政状況の変化について

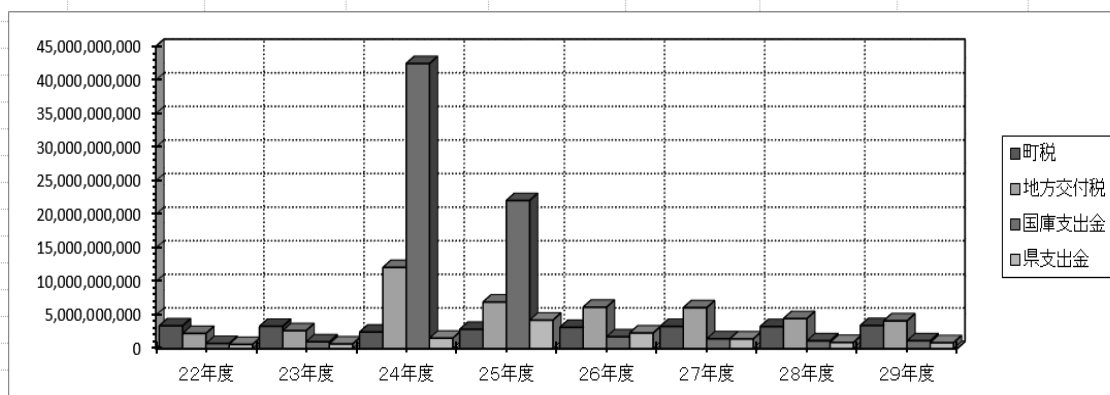
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
町税	3,406,662,000	3,321,466,000			3,167,332,000	3,301,404,000	3,281,719,000	
地方交付税	2,256,000,000	2,670,000,000			6,169,964,000	6,086,511,000	4,474,115,000	
国庫支出金	759,379,000	1,011,599,000			1,760,343,000	1,469,176,000	1,163,965,000	
県支出金	626,290,000	699,980,000			2,326,658,000	1,446,218,000	921,253,000	

下のデータは紙ベースで生徒に渡し、上のデータに入力させます。

◎東日本大震災前後に見る亘理町財政状況の変化について

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
町税	3,406,662,000	3,321,466,000	2,461,738,000	2,874,223,000	3,167,332,000	3,301,404,000	3,281,719,000	3,436,867,000
地方交付税	2,256,000,000	2,670,000,000	12,079,617,000	6,930,455,000	6,169,964,000	6,086,511,000	4,474,115,000	4,134,767,000
国庫支出金	759,379,000	1,011,599,000	42,435,407,000	22,054,066,000	1,760,343,000	1,469,176,000	1,163,965,000	1,168,887,000
県支出金	626,290,000	699,980,000	1,558,204,000	4,248,174,000	2,326,658,000	1,446,218,000	921,253,000	887,397,000

これが完成形です。24、25年度がいかに突出しているかが分かります。



国庫支出金…震災前 7 億 6 千万円，震災当初 4 2 4 億 3 5 0 0 万円，昨年度 1 1 億 7 千万円
 地方交付税交付金…震災前 2 2 億 5 6 0 0 万円，震災当初 1 2 0 億 8 0 0 0 万円，昨年度 4 1 億 3 5 0 0 万円
 県支出金…震災前 6 億 2 6 0 0 万円，震災当初 1 5 億 6 0 0 0 万円，昨年度 8 億 8 7 0 0 万円

授業の様子

一生懸命数字を打ち込んでいます。

震災から、亘理町が復興できつつあるのは、なぜだろう。
復興の背景を探ろう

授業のねらいをホワイトボードに示します。





感想をまとめています。逢限中の生徒は本当にまじめです。

10, 授業実践 ～まとめ～

生徒の感想 1

4, 巨理町の財政変化のグラフを作成してみて、気付いたことは何ですか？

震災前は国庫支出金という項目に99だったけど、震災後は1番多くなっている。(7億6千万円→424億3500万円)

5, 「税」の果たす役割って何だろう。なぜ「納税」は「義務」なのだろう。

何か大きな災害などで建物や道路が壊れてしまい直す時、復興する時に使うため、納税をしておかないとすぐに対応することができなくなってしまうから、納税が義務づけられているのではないかと考えた。

生徒の感想 2

4, 亘理町の財政変化のグラフを作成してみて、気付いたことは何ですか？

震災が起きてから国から出されたお金がきわめて高い。

男子

5, 「税」の果たす役割って何だろう。なぜ「納税」は「義務」なのだろう。

みんながいのちの被害に備えて、違う県だから知らなくてけなく、
日本全体で助け合っていくため税を払うらしい、日本がよりよい
暮らしをできるようにしている。
次の世代のためにも。

11, 研究のまとめ

- (1) 1 単位授業時間の中での有意義な研究にならないものかと考え、実践してみた。資料を集めたり、生徒が取り組みやすく、分かりやすい内容にするための準備は大変だったが、生徒の真剣に取り組む様子を見て、充実感を得ることができた。
- (2) 亘理町の過去、そして現在の財政面での状況を捉えさせることにより、税が私たちの生活に役立っていることを実感させることができた。
- (3) 何のために税を納めなくてはならないかを、震災の復興を通して一人一人に考えさせることができた。
- (4) 理解を深めさせる手段として「比較」を使ったが、有効だった。時代を超えた予算の比較などしてみてもおもしろいと思った。

令和元年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下中学校

教諭 風間啓太

1 研究主題

『租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成』
～租税教室体験を通して～

2 主題設定の理由

私たちの暮らしは、国や地方公共団体の政治と深く結びついている。その政治は私たちが安心して生活できるように、様々な公共サービスを行っている。身近なところでは、学校建築や義務教育諸学校における教科書の無償配布、生活や安全を守るための警察や消防、健康を維持するための医療などがそうである。これらの公共サービスを行うために必要な費用のほとんどが、国民の納めている租税によってまかなわれている。

租税について、生徒は消費税の存在は知っているものの、自分たちが納めている消費税の使途、自分たちの社会が維持され安心して暮らせるための財源、租税が果たしている役割等をはっきりと認識しているわけではない。また、どのようなところで租税とかわかり、どのように納めているのかなど、なかなか知ることができない。さらに、現代社会は租税の未納などが問題化している。そのために適切な医療を受けられない人もいるなど、租税に対しての意識が希薄になってきているのも事実である。

未来の日本を担う一員として、納税者として租税の使い道に関心を持つとともに、日本の財政について正しい知識を持つことで、租税を正しく理解し、主体的に考える態度を育成したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒を育成するにはどうすればよいか租税教室体験を通して明らかにする。

4 研究仮説

租税教室を体験し、租税の仕組みや使途を知ることで、租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒を育成できるであろう。

5 研究方法

研究目標を達成させるために以下のことを行う。

- 1) 租税に関する生徒の実態調査
- 2) 租税教室の実施
- 3) 租税教室を終えての振り返り（租税教室受講の前と後で、租税への意識の変容を把握する）

6 研究計画

- ・アンケートを用いての実態把握
- ・仙台南税務署の署員の方を招いての租税教室
- ・アンケートを用いて、意識の変容の調査

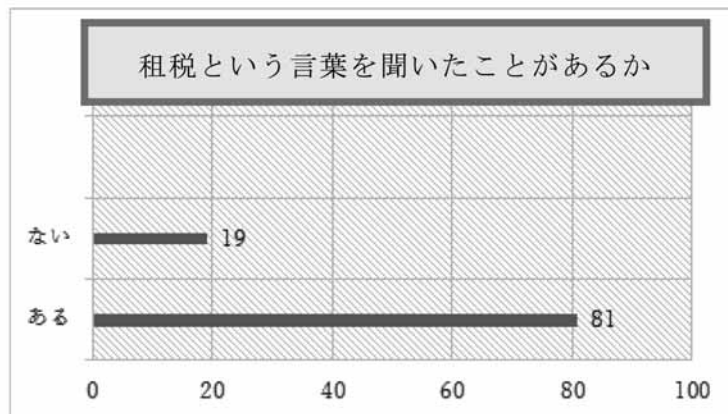
8月29日	実態把握
9月19日	租税教室
9月20日	振り返り

7 研究の概要

1) 租税に関する実態調査 (対象2学年調査数60名) 8月29日実施 回答者53名
 <租税教室実施前>

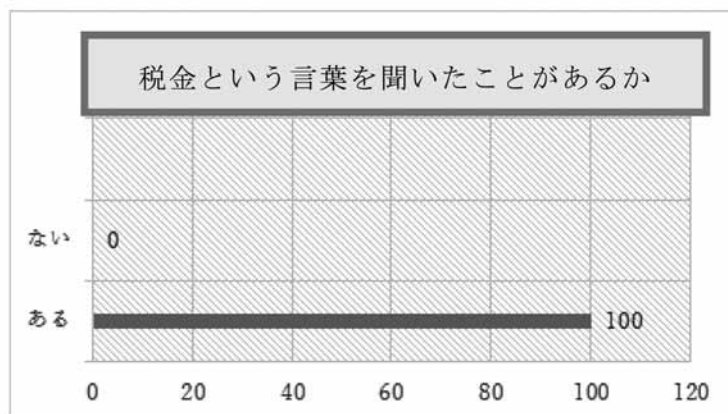
①租税(そぜい)という言葉を知ったことがありますか。

- ・ある 43名 (81%)
- ・ない 10名 (19%)



②「税金」という言葉を知ったことがありますか。

- ・ある 53名 (100%)
- ・ない 0名 (0%)



③知っている税金の名前を書いて下さい。(生徒の回答のまま表記)

- ・消費税 (49名)
- ・所得税 (15名)
- ・住民税 (7名)
- ・相続税 (3名)
- ・自動車税 (2名)
- ・たばこ税 (2名)
- ・固定資産税 (2名)
- ・酒税 (1名)
- ・法人税 (1名)
- ・県民税 (1名)

④税金は何のためにあると思いますか。(生徒の回答のまま表記)

- ・国のため (47名)
- ・国民の生活のため (40名)
- ・暮らしをよくするため (35名)
- ・将来の私たちのため (28名)
- ・政治をよくするため (20名)
- ・公共施設を作るため (10名)
- ・社会保障のため (3名)
- ・年金のため (1名)

⑤税金について必要かどうかなども含め、あなたの考えや感じたことを書いて下さい。

- ・国民の義務だから必要 (38名)
- ・あまり多く納める必要はないけれど必要 (30名)
- ・本当に必要な分だけ納めるのであれば必要 (15名)
- ・救急車やゴミ回収など色んな所で必要 (8名)
- ・増税をする前に節約することが必要 (8名)
- ・高齢者が暮らせなくなるから必要 (3名)
- ・必要ではあるけれど、消費税は2～3%で良いと思う (1名)

⑥どんなことに税金を使うのがよいと思いますか。思ったことを書いてみよう。

- ・国民の生活を良くするため（５０名） ・住宅や公共施設を直したりするため（３４名）
- ・生活に困っている人や、町の復興や発展のため（３０名） ・年金の支払い（５名）

【生徒の実態と考察】

「租税」という言葉に聞き覚えがない生徒も多数いたが、「税金」という言葉は全員が知っていた。知っている税金の種類としてはほぼ全員が「消費税」を挙げていた。生徒にとって消費税は身近な税金という認識が強いということが分かる。税金は何のためにあるか、という問いに対して、多くの生徒が国や国民の暮らしを良くするためと答えたことから、税金が我々の生活と深く関わっていることが分かる。しかし、なぜ税金は必要なのかという点においては、「義務であるため」という意見が多く、具体性のある回答は少なかった。

実態把握を通し、租税（税金）という言葉に聞き覚えはあっても、その使途や存在意義に関しての理解は十分ではないことが分かる。

２）「租税教室」の実施

テーマ 「税金の種類や税の仕組みを知り、我々の暮らしと税との関わりを知ろう」

ゲストティーチャー 仙台南税務署職員２名 （日野さん、井口さん）

対象：２学年６０名

段階	学 習 内 容	指導上の留意点
導入	・職員自己紹介 ・「税金のない社会」に関するDVDを見て、税金の大切さを知る。	・生徒にとって身近な事象を取り上げる。
展開	・DVDの内容を受けて、我々の生活のどのような部分に税金が関係しているのかを学ぶ。 ① 税金の種類 ② 税金の使い道 ③ 世界の国々との比較 ④ 税金のある社会とない社会の違いについて振り返る。 ・１億円のレプリカを手に持ち、重さや量を体感する。 ・質疑応答 ・DVDの内容や、パソコンを使っでの説明に関しての質問があれば質問をする。	・「消費税」や「所得税」など日々の生活の中で触れることの多い内容は、DVD視聴後にも、口頭で触れる。 ・パソコンを使い、分かりやすく税金の種類や税金の使い道について説明する。 ・何人かの生徒を選び、重さや量を体感できるようにする。 ・活発に質疑応答ができるようにある程度長く時間を取る。
終結	感想や意見、アンケート調査 （＊授業実施後のアンケートで行う）	・税金が我々の暮らしとどのように結びついているのかという観点に着目して振り返る。

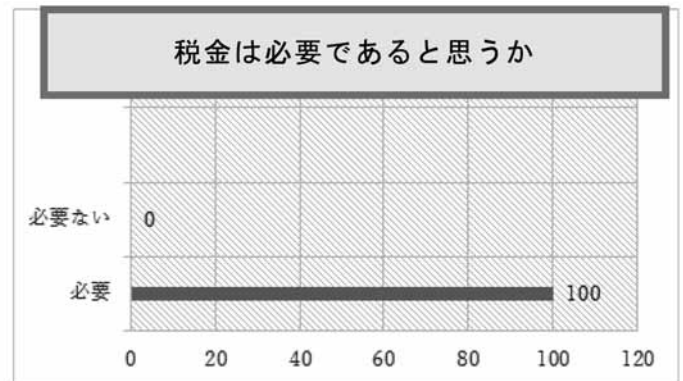
「租税教室」の様子 ※写真



3) 「租税教室」を終えて生徒の実態調査 (対象2学年60名) 回答者53名 <租税教室実施後>

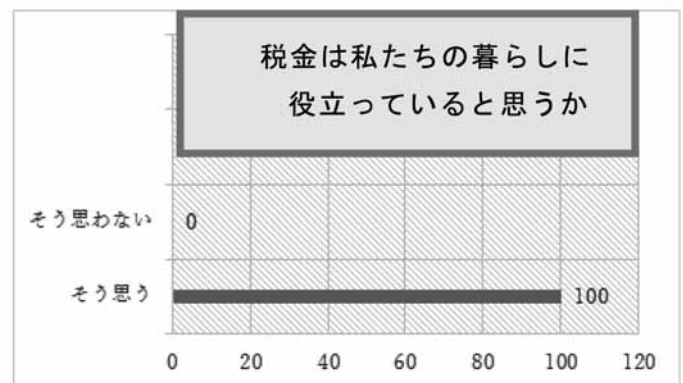
①税金は必要だと思いますか。

- ・必要 53名 (100%)
- ・必要ない 0名 (0%)



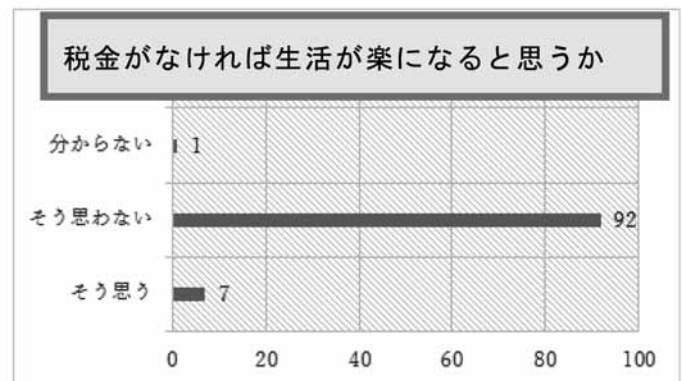
②税金は私たちの暮らしに役立っていると思いますか。

- ・そう思う 53名 (100%)
- ・そう思わない 0名 (0%)



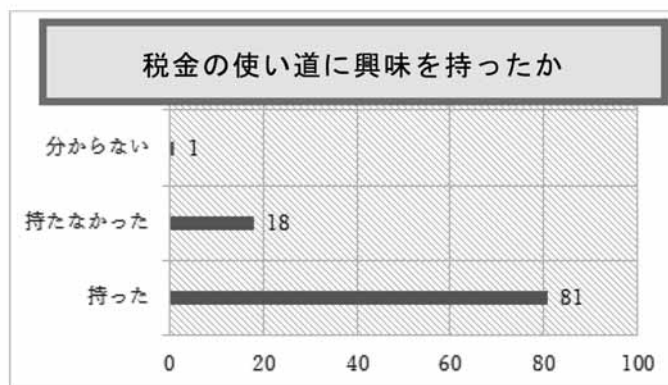
③税金がなくなれば、生活が楽になると思いますか。

- ・そう思わない 49名 (92%)
- ・そう思う 4名 (7%)



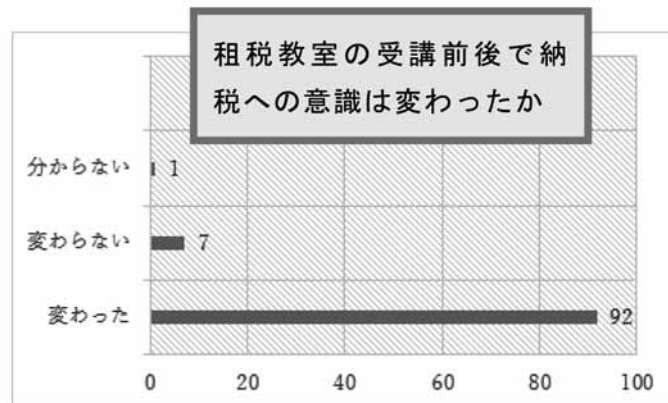
④税金の使い道に興味を持ちましたか。

- ・持った 43名 (81%)
- ・持たなかった 10名 (18%)



⑤租税教室を受講する前と後で税金を納めることへの意識は変わりましたか。

- ・変わった 49名 (92%)
- ・変わらない 4名 (7%)



⑥どんなことに税金を使ってほしいですか。 (主な回答)

- ・私たちの生活のため (50名)
- ・国のため (49名)
- ・県や町の復興のため (45名)
- ・生活に困っている人にとって (40名)
- ・公共施設のため (25名)
- ・警察や病院の仕事 (17名)
- ・みんなが使うもの (6名)

⑦「租税教室」を終えての感想・意見

- ・税金は私たちの暮らしに役立っており、欠かすことのできないものであることが分かった。
- ・税金の使い道が詳しく分かり、税金がなくては私たちの暮らしが不便になってしまうことが分かった。
- ・税の種類や仕組みが詳しく分かり、税についてのメリット、デメリットが理解できた。

8. 成果と課題

租税教室を終えて税の種類だけではなく、使い道やなぜ今日の日本で納税という制度が採られているのか理解できた。また、個人の救済という観点だけではなく、税金は国民全員の生活の向上を目指して使われていることを知ったのも大きな成果であった。

生徒が租税をより身近な存在に感じ、将来の健全な納税者となり得るような教育が不可欠である。山元町は震災からの復興や教育行政に多くの租税による復興事業を受けてきた。今後も町の復興や他の教科と関連を図りながら、生徒にとってより身近な話題となるよう租税に関する授業を積極的に進めていきたい。

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榑 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴 木 啓二郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜代子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真勇美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高屋小学校	太 田 久仁男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にする態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひさ子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭 也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 美保子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成 5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面ととらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものとさせる指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成 6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀬小学校	大 沼 仁	税金の必要性和その使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成 7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成 8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真勇美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐々木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久美子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することがらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真理子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴 木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 鴨 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬成田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀬小学校	西 澤 勝 雄	社会科学学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 原 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度) ※ 平成23.24年度は震災により中断

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心をもち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亶理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 泰 憲 西 澤 彰 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 嶋 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亶理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵理子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐久間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み ～小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して～
	亶理町立亶理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』 ～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して～
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 ～公共施設から税金を考える～
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心をもち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

租税教育実践発表一覧(平成26年度～)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成26	名取市立不二が丘小学校	清 野 秀 和	「租税への関心を高めるための指導の工夫」 ～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	阿 部 幸 子	「租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫」 ～租税教室や身近な資料の活用を通して～
	亶理町立亶理小学校	酒 井 久美子	「町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫」 ～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～
	山元町立坂元中学校	渡 邊 淳 一	「将来の納税者としての意識を育む税金学習」
平成27	名取市立関上中学校	荒 川 美 貴	「積極的納税者を育むための指導の工夫」 ～税の使い道についての学習や租税教室の活用を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	丸 谷 由 浩	「未来の望ましい納税者を育てる指導の実践」 ～税金に対する正しい知識を身に付け、正しく納めようとする態度を養う指導を通して～
	亶理町立吉田中学校	妹 尾 文 男	「納税者意識を高める指導の工夫」 ～生徒の疑問を大切にしたい授業づくりと税について考える機会を増やす実践から～
	山元町立坂元小学校	佐 竹 聡 子	「税金の役割を理解し、税金の必要性を感じられる児童の育成」 ～「坂元の復興と税金とのかかわり」を考える学習を通して～
平成28	名取市立下増田小学校	手 塚 英 海	「税に対する知識を深め、健全な納税者を育てる指導の実践」 ～主体的に課題を設定し、探求する学習を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	武 田 裕 光	「地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫」
	亶理町立長瀬小学校	武 田 清 美	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を理解しようとする児童の育成」 ～税について児童自ら課題をもち、調べる活動を展開する学習から～
	山元町立山下第二小学校	渡 部 史 郎	「未来の納税者を育てる指導の一試み」 ～児童の「税」への興味・関心を生かした調べ学習を通して～
平成29	名取市立関上小学校	菅 原 さとみ	「第6学年社会科学学習として行う租税教育のあり方一考察」
	岩沼市立岩沼小学校	三 澤 恵	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」 ～税金の使い道について考えさせる活動を通して～
	亶理町立荒浜中学校	小 嶋 幸 生	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」 ～学び合いを取り入れた指導を通して～
	山元町立山下小学校	森 大 地	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」 ～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～
平成30	名取市立第一中学校	榊 田 修	「租税教室や資料を用いた指導の工夫」
	岩沼市立玉浦中学校	川 又 大 輝	「歴史的分野における租税教育の可能性」 ～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～
	亶理町立荒浜小学校	高 橋 洋 彰	「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」 ～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	名 取 富 江	「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

租税教育実践発表一覧(令和元年度～)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
令和元	名取市立高館小学校	大 槻 裕 史	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫」 ～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～
	岩沼市立玉浦小学校	村 田 志 乃	「児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための工夫」 ～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～
	亶理町立逢隈中学校	都 澤 智 洋	「税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫」 ～震災前、震災直後、現在の亶理町の収入を比較させることを通して～ ～亶理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～
	山元町立山下中学校	風 間 啓 太	「租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成」 ～租税教室体験を通して～

仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関	名 等	氏 名
会 長	名 取 市 教 育 委 員 会	教 育 長	瀧 澤 信 雄
副 会 長	公益社団法人仙台南法人会	会 長	佐 藤 和 也
	仙 台 南 税 務 署	副 署 長	伊 藤 勝
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署	総 務 課 長	菅 原 久
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所	所 長	小 野 寺 修
	名 取 市 教 育 委 員 会	学 校 教 育 課 長	大 友 孝
	山 元 町 教 育 委 員 会	教 育 総 務 課 長	佐 藤 兵 吉
	名 取 市 校 長 会 会 長	増 田 小 学 校 長	小 野 聡 子
	岩 沼 市 校 長 会 会 長	岩 沼 中 学 校 長	及 川 牧
	亘 理 町 校 長 会 会 長	亘 理 小 学 校 長	宇 津 江 俊 彦
	山 元 町 校 長 会 会 長	山 下 中 学 校 長	浅 川 光 喜
	仙 台 南 税 務 署 管 内 会 青 色 申 告 会 連 合 会	会 長	猪 股 弘 志
	仙 台 南 間 税 会	会 長	齋 藤 邦 男
	宮 城 県 仙 台 南 県 税 事 務 所	所 長	岩 渕 浩 一
	名 取 市	税 務 課 長	菊 地 俊 雄
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部	支 部 長	千 葉 末 男
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合	理 事 長	藤 原 仁 昭

顧 問	名 取 市	市 長	山 田 司 郎
	岩 沼 市	市 長	菊 地 啓 夫
	亘 理 町	町 長	山 田 周 伸
	山 元 町	町 長	齋 藤 俊 夫
	仙 台 南 税 務 署	署 長	古 木 隆 幸

令和2年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

事務局：仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）
（022）306－8001 内線305